

一般財団法人アーネスト育成財団

第 14 期(2025 年度)

事 業 計 画 (案)

1. 事業概要

世界の各地で国と国とが戦う戦争が起きており、平和な日本のままでどこまで行けるのかという緊張の時代が到来している。いま世界は「風の時代」、大きな変革の嵐の中にある。

日本では、少数与党である高市早苗政権が維新との連立合意で 2025 年 10 月 21 日に発足した。日本経済の立て直しに国民の期待が高まっている。

財団の定款には「豊かで明るい持続的な成長をする日本づくりに寄与することを目的とする」とある。「技術経営人財の育成事業」に取り組むことで、日本再生に寄与したい。企業がより付加価値ある事業に取り組むことで、社員に充分な給与を支払えるようにし、日本を元気にしたい。

風の時代を読む研究会

2024 年 4 月から「風の時代を読む研究会」に取り組んだ。経済学者から世界の経済状況に関する講演を聞くことで、世界が大転換期にあることが明確になった。(1) 米中対立、ウクライナ戦争、多極化などの「地政学の再編」、(2) デジタル化、生成 AI などの「技術と経済の融合」、(3) 少子高齢化、移民、格差の拡大などの「人口構造、社会構造の変化」、(4) 成長から共生社会、持続可能性への移行などの「価値観の変容」という大変革が進行している。

経営と経済をつなぐ研究

経営者が経済情報を理解し、経営判断に活かす力を養うことを目的に 2025 年 9 月から「経営と経済をつなぐ研究」に取り組んでいる。経済学の理論よりも「実践的な経済情報」の活用に重点を置く。「西河経営哲学」と「技術経営」と「経済学」という三者の融合を目指す。

経営者が経済動向を捉えることができるための経営と経済をつなぐ知見を整理し、書籍に整理することを目指す。

財団は、中小企業の経営者に狙いを定めて技術経営人財の育成に本年度も取り組む。混沌としている変革の時こそ、中小企業が躍進する機会である。財団は変革の嵐に耐えられる企業経営を研究し、得られた知見を効率的に経営者に教示する事業に引き続き取り組む。

2. 西河技術経営塾実践経営スクール

企業と日本を元氣にする実践的経営を学ぶ。「技術経営学」を学び、強みを明確にした経営を教示する。

次の学びの成果があるとしている。

- (1) 売上を10倍にする西河技術経営を学び、雇用を増やし、税金を払う。
- (2) お金が企業の血液であることを学ぶ。
- (3) 実践的思考、変革的思考を受講生参加型で育成する。
- (4) 日本的技術経営研究の成果に基づいた体系化されたカリキュラムで学ぶ。
- (5) 自社の経営課題を題材にし、明日から使える実践的な経営を学ぶ。
- (6) 誠実な経営人財を育成する。

2. 1 西河技術経営塾（代々木校）

西河技術経営塾（代々木校）第14期は、2026年9月に開塾する。原則、水曜日の午後6時から午後9時10分までとする。

対面形式で財団内会議室を使用して運営する。

2. 2 西河技術経営塾（沼田校）

利根沼田地区の経営者を主に対象として第7期生を募集し、2026年3月に開塾する。開塾にあたっては、小坂建設株（小坂哲平代表取締役）から協賛を得る。原則、隔週土曜日の午前9時30分から午後5時までとする。

2. 3 西河技術経営塾ネット入門講座（公益活動）の取り組み

西河技術経営塾の更なる発展を目指し、YouTubeを使った「ミニ講座」の動画配信に継続的に取り組む。財団活動の公開性を高めることに目的を置くとともに、西河技術経営塾で取り組む経営者育成の周知、塾修了生の学び直しの支援、外部研修への参加者への資料提供等ができるものと考えている。

3. 技術経営人財育成セミナーの開催

「変革期のリーダーが学ぶことは何か」とのテーマで、人財育成セミナーを昨年度に引き続き開催する。参加定員は18名とし、財団内会議室で実施する。セミナーの内容に応じて、オンライン配信にも取り組む。

4. 調査研究委員会

4. 1 風の時代を読む研究会

「風の時代を読む研究会」に 2024 年 4 月から座長に森下あや子日本経済大学教授を迎えて組んできた。総括討議を 2025 年 12 月 8 日開催の第 5 回会合で行い、本研究会を終了する。

4. 2 経営と経済をつなぐ研究

「経営と経済をつなぐ」と題する研究への取り組みを 2025 年 9 月から開始した。経済的な知識なしに経営することが難しくなっているからである。いかなる経済情報をみて、経営にどう反映すべきかの研究に取組む。

3 年間かけて、西河洋一理事長、下斗米秀之明治大学准教授、小平和一朗専務理事の 3 名が取り組む。経営者が経済動向を捉えることができるための経営と経済をつなぐ知見を整理し、書籍化に取り組む。

4. 3 その他の研究会活動

社会変革が急速に進行している。中小企業の経営者が求める経営に関する情報とは何かの観点でリサーチを継続する。

取り組むべき事象が発生した場合は、理事会に提案をして審議、決定する。

5. 広報・広告宣伝

「一般財団法人アーネスト育成財団」というコーポレートブランド、「西河技術経営塾」や「技術経営学」というプロダクトブランドおよび「技術経営人財の育成」というエンジニアリング・ブランドを構築する。

5. 1 ホームページの保守・運用

ホームページ (<https://www.eufd.org>) は、昨年度に引き続き公開可能な情報をタイムリーに掲載し、実務に役立つ日本型技術経営情報を公開する。

5. 2 活動報告（情報紙 Earnest）の発行

財団の活動を広報する目的で、「誠実を伝える情報紙 Earnest」を 3 か月に 1 回、年間 4 回発行する。

5. 3 広告宣伝

芝浦工業大学校友会の賛助広告や一般社団法人日本開発工学会の学会誌「開発工学」などへ広告を掲載する。

5. 4 新年賀詞交歓会

2026年1月21日に新年賀詞交歓会を帝国ホテルにて開催する。

6. 外部団体との連携

下記の団体との連携に取り組む。

(1) 西河技術経営学沼田塾

西河技術経営学沼田塾（代表 小坂哲平：代々木校5期生）は、沼田校で塾の進行と講師を担当した小坂が地域経営者の育成のためにつくった塾である。

沼田校の修了生が塾生になって、「西河技術経営学」に関わる実践的な研究を行う塾であると設立趣意にある。本年度も沼田塾メンバーと経営学に関する研究会を共催し、意見交流を行う。「西河技術経営塾（沼田校）7期」の開塾式や修了式に招聘する。財団は、沼田塾からの要請に応じて、活動を支援する。

財団が抱える学び直しの課題解決に取り組むOB塾としての位置づけで、希望する代々木校OBを含めた活動になるよう協議し、支援する。

(2) 敬愛大学

寄付講座（『経営シミュレーション（西河技術経営学入門）』）に取り組む。

(3) 一般社団法人日本開発工学会

役員への就任、事務局事務所の提供、活動支援など。

(4) 芝浦工業大学校友会活動

校友会役員、活動支援など。

(5) 芝浦工業大学校友会 MOT 同窓会支部（西河洋一支部長）

支部役員、活動支援など。

(6) 一般社団法人アフリカ協会（淺野昌宏副理事長）

会員活動など。

以上